

年度 2007 学期 前期	曜日・校時	月曜日 7校時	必修選択	必修	単位数	2
授業科目/(英語名)	教養セミナー / (First-Year Seminar)					
対象年次(標準履修年次)	1年	講義形態	講義	教室	(別指示)	
対象学生(クラス等)	新入生全員		科目分類	共通基礎科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー						
赤石 孝次 ・ 神郡 克彦 ・ 島田 章 ・ 津留崎 和義						
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標						
<p>授業のねらい: 知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。</p> <p>授業方法: 1クラス 10～15とし、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。</p> <p>授業到達目標: 知的活動への動機づけを高める。科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。レポートや口頭でのプレゼンテーション及びディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を知る。</p>						
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単位は15週(30時間)で2単位とする。学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的で双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。</li> <li>2. 教養セミナーのテーマは、大学教育へのオリエンテーション機能を持つこと、学生が複数の学部生の混成であることなどを考慮し、学生との話し合いを重視する。</li> </ol>						
キーワード						
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。					
成績評価の方法・基準等	<p>教養セミナーに対する取り組み方・ディスカッション(教養セミナーに対する積極的な参加、情報の収集状況・分析など)、プレゼンテーション(分かりやすい資料、話の構成、説得力など)、レポート(構成、文書表現など)により総合評価する。 (詳細は授業開始時に各担当教員から提示する。)</p>					
受講要件(履修条件)						
本科目の位置づけ/学習・教育目標						
備考(準備学習等)						

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 火6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員:白水桂子 /Eメールアドレス:kuwata@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部 /オフィスパワー:Eメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標          授業のねらい:基本的な英文の語順や構造を復習、確認し、様々な場面での役に立つ英語表現の習得を目指します。</p> <p>授業方法:          様々な場面での会話のリスニングをし、聞き取った表現の確認と音読練習をします。</p> <p>授業到達目標:          リスニングに慣れると共に、役に立つ英語表現を覚えること。</p>			
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)          授業内容(概要)          毎回1~2単元進む予定にしています。リスニングや内容確認、音読を行います。</p> <p>第1回 オリエンテーション/Booking Accommodation          第2回 Taking Photos/At a restaurant          第3回 Let's stay Healthy/Television          第4回 Sports/Confirmation          第5回 Taking a Taxi/On the Plane          第6回 Meeting at the Airport/Impressions          第7回 Giving Advice/Asking for Permission          第8回 小テスト(予定)          第9回 Inviting People/Arrival at a Host Family's Home          第10回 Giving a Gift/Volunteer Work          第11回 Computers/At a Meeting          第12回 In the Workplace/Saying Goodbye          第13回 小テスト          第14回 予備日          第15回 定期試験 又は 通常授業</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	金子光茂/リチャード・H・シンプソン(著)『コミュニケーションの英語チェックブック』(南雲堂)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況等 50% 小テストや期末試験 50% を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木6	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication		
対象年次 2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員:白水桂子 /Eメールアドレス:kuwata@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済学部 /オフィスマワー:Eメールで受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標          授業のねらい:アジアの若者文化を題材にしたテキストを使い、聴解力、読解力の向上を目指します。</p> <p>授業方法:CD 付きのテキストを使用するので、音声を聞きながら指示された箇所を予習してもらいます。授業ではリスニングの確認や文法事項の確認と共に英文の内容把握をします。</p> <p>授業到達目標:          英語のリズムやイントネーションなどの音声面での知識の習得と語彙力、読解力の向上。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)          授業内容(概要)          リスニング、音読、英文の語彙の確認及び英文読解をします。          毎回1単元進む予定にしています。</p> <p>第1回 オリエンテーション          第2回 Korean TV Dramas          第3回 Indian Traffic          第4回 Hello Kitty in Singapore          第5回 Wedding Plans          第6回 Blood Type in Korea          第7回 Bollywood Movies          第8回 Chinese as a Foreign Language          第9回 Indonesian Elephant Doctor          第10回 Medical Tourism in the Philippines          第11回 One Billion Couch Potatoes          第12回 Mongolian Women          第13回 Food Culture in Taiwan          第14回 Thai Amulets          第15回 Miss Vietnam Loses Out</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	Nagamoto,Fouser &Tachino, <u>Hello, Asia!</u> (南雲堂)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況等 50% 小テストや定期試験 50% を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木 6	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication			
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 丸山真純 / Eメールアドレス: masazumi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 東南アジア研究所 312 /オフィスアワー: 18:00-19:30, Tuesday				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: コミュニケーションのための英文法の理解に努める。英語を運用する(話す、聞く、書く、読むに関わらず)には、他の要素と合わせて、英文法の知識が不可欠です。本授業では、基礎的な英文法を確認しながら、英語による表現力の向上をねらう。 教科書に基づきながら、解説をし、受講生には授業内外を通じ、練習(や練習問題)を行ってもらおう。毎回課題提出があり、数回の小テストを行う。こうした授業内外で英語に触れることによって、英語力向上をねらう。 授業方法: 担当教員による基本的文法事項の講義・解説。演習問題などの演習。 授業到達目標: 基本的文法事項の習得(辞書を用いれば、表現したい内容を英文で表現できるようになること)。				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 1 年次と同じ教科書を用い、引き続き、基本的英文法事項を習得し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。 第1回 Introduction(講義概要紹介) 第2回 Chapter 9 ネットワーク社会 第3回 時制 現在・過去・未来 第4回 Chapter 10 映画・音楽 第5回 進行形 第6回 Chapter 11 旅行・経験・体験 第7回 完了形 第8回 Chapter 13 自己発見・自分探し 第9回 不定詞と動名詞 第10回 Chapter 15 市場経済・ビジネス 第11回 関係詞 第12回 Chapter 17 迷信・神話・占い 第13回 知覚動詞・使役動詞 第14回 Chapter 18 名声・セレブ・有名人 第15回 受動態と能動態				
キーワード	基礎英文法 時制 進行形 不定詞・動名詞 関係詞			
教科書・教材・参考書	<i>First Things First</i> by Tetsuro FUJII, MACMILAN. (1年次と同じ)			
成績評価の方法・基準等	出席 課題提出 小テスト 期末試験 から総合的に評価します (初回に詳しく説明します)			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ /学習・教育目標				
備考(準備学習等)				

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 火 6	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 メディアステーション		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 吉村宗司 / Eメールアドレス: <a href="mailto:yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp">yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp</a> / 研究室: 非常勤講師控室 / オフィスアワー: 授業の前後(教室: メディアステーション)				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 (500文字) 授業のねらい: 対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語) 必要最低限の英語(米語) を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。  授業方法: まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声的特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。  授業到達目標: 本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。				
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) (1300文字) 授業内容(概要) 前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声的特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。  第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』 分析結果の報告と対策法について 第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説 / 『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則) 第4回 [t][d][g]の脱落 / [t][d]のラ行音化 / 連結しない場合の[l] / [h]の脱落 第5回 『同化』を聞き取るパターン (半母音[j]に絡む音変化) 第6回 『同化』を聞き取るパターン ([n]の後続音への影響) 第7回 [r]の発音 / 『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン / 『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン 第9回 On an Airplane(1) 第10回 On an Airplane(2) 第11回 At an Airport(1) 第12回 At an Airport(2) / VTR 視聴 / ニュースを聞き取る 第13回 Taking a Taxi / VTR 視聴 / 洋楽を聞き取る 第14回 Taking Public Transportation / VTR 視聴 第15回 At a Hotel / 総括  毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。				
キーワード	音法			
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング 聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR 教材)			
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(トレーニングの状況や受講態度 20%)等の総合判定によって評価を行なう。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ / 学習・教育目標				
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 Comprehensive English		
対象年次 2年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介/ Eメールアドレス: pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp/ 研究室: 非常勤講師控室/ オフィスアワー: 授業終了後			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: リーディング、基礎文法の復習、語彙力増強、および、リスニング、スピーキングに重点を置き、英語でコミュニケーションをとる方法を総合的にバランスよく学習することをねらいとする。  授業方法: Reading では英語力の基礎固めをするとともに批判的思考力の向上をめざす。Have a Laugh のセクションではユーモアのセンスを養いながらの学習をする。Grammar Highlights では例文および文法の説明によって伝統的な文法と現代英語の表現を平行して学ぶ。  授業到達目標: 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、スピーキングのみならず、書く力を鍛錬することで、英語における表現力を豊かにしたい。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 各 Chapter は Vocabulary for Reading, Reading, Reading the Main Ideas, In Detail, Vocabulary, Grammar Highlights, Practice(1)(2), Have a Laugh, Did you know? からなっており、学習内容に関して反復練習をすることにより、スキルを確実なものとしていく。  第1回 Introduction 第2回 Chapter 1 Names 第3回 Chapter 2 You 第4回 Chapter 3 Loanwords in English 第5回 Chapter 4 Jokes 第6回 Chapter 5 English as a Foreign Language 第7回 Chapter 6 Spelling in English 第8回 中間試験 第9回 Chapter 7 American and British English 第10回 Chapter 8 Men and Women 第11回 Chapter 9 Japanese English 第12回 Chapter 10 Slang 第13回 Chapter 11 The Haiku in English 第14回 Chapter 12 Intercultural Communication 第15回 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	A Journey into English Shoko Kojima, Daniel H. Lowit 編著 Asahi Press		
成績評価の方法・基準等	定期試験 50%、中間試験 20%、小試験 15%、授業への姿勢 15%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 金 7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	健康・スポーツ科学 Science of Health and Sports		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 健康・スポーツ科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 中垣内真樹 / Eメールアドレス: gaichi@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 大学教育機能開発センター3F /オフィスパワー: 月、火、木曜日 12:00~12:50、16:00~17:00			
担当教員(オムニバス科目等)	菅原正志、田井村明博、畑孝幸、西澤昭、山内正毅、中山雅雄、衛藤正雄、浦田秀子、青柳潔、林田雅希、長谷敦子、有吉紅也、水野明夫		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 健康や身体運動に関する身体的、生理的特性、またはその社会的側面などについて理解を深め、実生活で役立つ知識の獲得をねらいとする。 授業方法: 授業で配布する資料を用いて健康や身体運動に関する基礎知識を講義形式で説明する。適時、身近なデータを用いた計算、分析、各自のライフスタイルなどの振り返りなどの演習もおこない実生活に役立つ知識も提供する。 授業到達目標: 生活習慣に関連する身体的・精神的疾病の基礎を説明できるようにする。生活習慣と健康、身体運動と健康の関連性を説明できるようにする。個々の生活習慣を振り返り、生活習慣を少しでも改善できるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 以下のテーマに従って健康や身体運動に関する身体的、生理的徳用またはその社会的側面などについて理解を深める。  第1回 菅原正志: スポーツ活動と熱障害 第2回 田井村明博: 運動とエネルギー、運動と筋肉 第3回 畑孝幸: スポーツと健康の関係の考察 第4回 西澤昭: リラクゼーションの方法 第5回 中垣内真樹: 運動と食事と健康 第6回 山内正毅: 運動学習の心理学 第7回 中山雅雄: トレーニング方法 第8回 衛藤正雄: スポーツ医学 第9回 浦田秀子: 成人病とライフスタイル 第10回 青柳潔: 成人病とライフスタイル 第11回 林田雅希: 心の健康 第12回 長谷敦子: 救急法 第13回 有吉紅也: AIDSと感染症 第14回 水野明夫: 歯と健康 第15回 総括			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配付する。 参考書: 学生と健康 (編) 国立大学等保健管理施設協議会 南江堂		
成績評価の方法・基準等	レポートまたは小テストの合計 100% 毎回のテーマに関するレポートを総合して評価する。各週のレポートあるいは小テストは、とても良い、普通、不可の3段階で評価し、15回の平均で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	情報処理入門 Introduction to Computer Sciences		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義・演習	教室 メディアステーション1・2	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 情報処理科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員：鈴木 斉 / Eメール：sigh@nagasaki-u.ac.jp / 研究室：経済本館 321 / /オフィスアワー：講義時間終了後、および、sigh@nagasaki-u.ac.jp にて受け付けています。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい： コンピュータの操作を伴う演習を通し、機器の基本的な動作原理や特性について学習し、 コンピュータの必要性の理解、および、専門課程での機器使用に対する準備を行う。 授業方法： 講義スタイルは第1回では座学、2~8回は演習を軸にコンピュータの基礎的な使い方の学習、 第9回以降ではプログラミングの基礎的な考え方等を通して情報処理技術の応用方法について学習します。 授業到達目標： 1) コンピュータを使用しレポートの作成、発表、および、提出が行えるようになる。 2) コンピュータの基本的な動作原理を説明できるようになる。 3) 情報倫理を学ぶことで、出来ることと実行しても良いこととの区別・判断をつけられるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 第1回、および、14回の授業で情報倫理について学習、および、今までに習得した知識の整理を行い、 第2回~8回ではコンピュータの基本的な操作方法の習熟が目的となります。 第9回以降の回ではコンピュータの動作原理や情報処理が可能となる原理について理解を深め、 今後の専門課程での講義を受講する際にコンピュータを効率的に使うための方法について学びます。  第1回 ガイダンス(授業方法の説明)、セキュリティと情報倫理について学習します。 第2回 日本語入力、文書入力、電子メールの利用方法について演習を交えて学習します。 第3回 情報収集の方法について演習を交えて学習します。 第4回 ワードプロソフト・プレゼンテーションソフトの使い方について演習を交えて学習します。 第5回 表計算ソフトの使い方について演習を交えて学習します。 第6回 表計算ソフトの使い方について演習を交えて学習します。 第7回 ワードプロソフト・プレゼンテーションソフトの使い方について演習を交えて学習します。 第8回 ワードプロソフト・プレゼンテーションソフトの使い方について演習を交えて学習します。 第9回 情報科学の進歩、および、コンピュータ発達の歴史について学習します。 第10回 コンピュータ内での情報の表現方法、アルゴリズム、プログラミングについて学習します。 第11回 プログラミングについて演習を交えて学習をします。 第12回 2進数と論理演算、ハードウェア(論理回路の基本)について学習します。 第13回 2進数での計算方法について演習を交えて学習します。 第14回 情報化社会の課題、情報セキュリティの観点から情報倫理について学習します。 第15回 定期試験			
キーワード	コンピュータ操作、情報倫理		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しません。参考書は講義中に適宜紹介します。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 40% (コンピュータの動作原理、情報を扱う上で必要となる倫理観等が実際に理解できているかを筆記式の試験で確認します) 演習課題 40% (機器操作を伴う課題への取り組みや完成状況を基に判断します) 授業に対する参加状況 20% (作業指示に従わない場合や演習の妨害行為等を減点対象とします)		
受講要件(履修条件)	特にありません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	情報メディア基盤センターの端末を活用出来るようになる。また、専門課程での学習に役立てられるようコンピュータ関連の技術的な基礎、および、原理の概要を習得する。		
備考(準備学習等)	特にありませんが、コンピュータの操作に慣れていない場合は、毎日少しの時間でもキーボードに触れる時間をとることが望まれます。		

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 火 7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	言語と芸術 (色と創造) Language and Art (Creation on color)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:井川 惺亮 /Eメールアドレス: <a href="mailto:ikawa@nagasaki-u.ac.jp">ikawa@nagasaki-u.ac.jp</a> /研究室: 井川研究室 /オフィスアワー: アポイントメントをお願いします。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: もしもこの世の中に「色」がなかったとしたら、と考えたことがありますか。どうでしょうか。怖いですね。ところで、皆さんは「色」の認識はどのくらいしているのでしょうか。何も芸術家になる人たちだけが考えている世界ではありません。そこで、日常出会う色について関心を深め、美的センスを養うことに着目していきます。 授業方法: 机上で色紙(いろがみ)など切ったり、それを貼ったりして、造形感覚を養います。また色の三原色についても考察していきます。授業の終わりには、授業感想文を書いて提出します。 授業到達目標: 「色」について少しでも関心を寄せるようになれば、しめたものです。「色」と「形」との関係も重要な要素となりますので、それを理解していただければ、あなたもアーティスト気分!			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 授業の主な流れは、身近の色の考察から始めます。次に色日記を作成して、私にとって色に囲まれた世界を再認識する。色の三原色について、絵の具・光・インクについて比較します。続いて私にとっての好きな「形」をデザインし、色日記と組み合わせでデザインする。そのデザインを立方体にして、インスタレーション(作品設営)を試みる。作品の鑑賞会も行います。  第1回 オリエンテーション 「色」について、まずグラデーションから 第2回 「色」について、色とは生きものだ 第3回 色日記を作成しよう!(授業開始時にトータルカラーなどの購入) 第4回 色日記の考察をする 色の三原色について 第5回 色の三原色における 絵の具、光、インクを見てみよう 第6回 同上 第7回 私の好きな「形」を作ろう そしてそれをデザインしよう! 第8回 同上 第9回 同上 第10回 同上。デザインを仕上げる(カラーコピーをとる)。 第11回 デザイン作品の鑑賞会。立方体を作ろう 第12回 立方体を作ろう 第13回 同上。インスタレーションについて(デジカメで撮影) 第14回 立方体作品の鑑賞会 第15回 レポート作成をし、デザインのカラーコピー、デジカメによる立体のプリントを、計3点提出			
キーワード	グラデーション、三原色、インスタレーション		
教科書・教材・参考書	トータルカラー(65色)、画用紙(8つ切りサイズ)3枚、のり、ハサミを常時各自用意		
成績評価の方法・基準等	普段の感想文提出・レポートなどの提出(3点)などを総合的に判断して評価(100%)する。		
受講要件(履修条件)	出席を重視します。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	「色」の世界を知ること、ものの見方や、また感覚の視野が広がってくる。具体的には、各自の身なり(カラーコーディネート)、家の自室などのインテリアなどに気を遣うようになるでしょう。		
備考(準備学習等)	普段の授業で遅れている者は、その都度、家で各自課題をこなしておくこと。常時、のり、ハサミなどを用意して授業に臨むこと。		

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 金 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史 (日本近世史) Society and History (Modern Japanese History)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 柴多一雄 / Eメールアドレス: shibatak@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 本館 5 階 505 室 /オフィスパワー: 火曜日 17:30 ~ 20:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 日本近世史を素材に歴史に対する理解を深めることを目的とするが、特に近世日本の歴史を一般的な歴史としてではなく、九州という具体的な地域を通して考えていくことを目的とする。</p> <p>授業方法: テキストは用いず、配付資料と板書を中心に講義形式で行う。</p> <p>授業到達目標: 自分が属する身近な社会について、基礎的な歴史知識を獲得し、歴史的に考えることができるようになる。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>兵農分離制・石高制・鎖国制によって示される日本近世社会の特質と九州という具体的な地域がもつ独自性が、どのように関係しながら近世九州の歴史が展開していったのか、さまざまな問題をとおして検討していく。</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 豊臣秀吉の九州平定 第3回 江戸幕府の成立と九州 第4回 鎖国と貿易都市長崎の成立 第5回 藩家臣団の構造 第6回 城下町と町人の生活 第7回 農村と農民の生活 第8回 在郷武士の社会と生活 第9回 街道と近世の旅 第10回 享保の飢饉 第11回 近世の貨幣制度 第12回 近世九州の産業 第13回 近世九州の文化 第14回 開港と貿易都市長崎の変貌 第15回 定期試験</p>			
キーワード	日本、近世、歴史、九州		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。 参考書は講義時間中に適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	小テスト 50%、定期試験 50%		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 木 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の構造(人の一生) Structural and Molecular Biology (Human life; from birth to death)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室 事務で記入	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	人間科学科目
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 篠原一之 / Eメールアドレス: kazuyuki@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 医学部第二生理学 / / オフィスアワー: 16時30分～17時00分			
担当教員(オムニバス科目等)	森山伸吾、大石和代、中尾優子、西谷正太、土居裕和、松本正、田川正人、北島道夫、江口二郎、北岡隆、崎浜教之、森望、鮎瀬卓郎		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 人の一生に関し、人体の構造や機能の変化を含め、様々な角度から解説を試み、誕生から死に至る過程を科学的に理解させ、ひいては「人間という生物」の総合的理解を深める事を目的とする。  授業方法: スライドあるいは板書による講義を行う。 * 必要に応じて、プリント・資料等を配布する。視聴覚教材も利用する。  授業到達目標: 人の一生には、どのようなライフイベントがあり、それは生物としての私たち人間の体のどのような構造あるいは機能を起源とするかを学習し、人間科学の基礎知識を養うことを到達目標とする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 基礎医学(神経科学、脳形態学)、保健科学(母子看護学、助産学)、臨床医学(産科婦人科学、小児科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、歯科学)といった多角的な観点から、人の一生に迫る。また、人の一生に含まれるライフイベントは、私たち人間の体のどのような仕組みによって行われているかを学習し、生体の構造に関する基礎知識を養う。 第1回 4月12日 『生殖』 (医学部産婦人科・助教: 北島道夫) 第2回 4月19日 『胎児』 (医学部第二生理学・教授: 篠原一之) 第3回 4月26日 『出産前 - 女性が母親になる過程 - 』 (医学部保健学科・教授: 大石和代) 第4回 5月10日 『出産後』 (医学部保健学科・准教授: 中尾優子) 第5回 5月17日 『乳幼児 匂いを介した母子間コミュニケーション』 (医学部第二生理学・助教: 西谷正太) 第6回 5月24日 『乳幼児 ことばと心の発達』 (医学部第二生理学・助教: 土居裕和) 第7回 6月7日 『小児-人間の多様性』 (医学部保健学科・教授: 松本正) 第8回 6月14日 『学童』 (医学部小児科・准教授: 岡田雅彦) 第9回 6月21日 『思春期』 (医学部産婦人科・助教: 井上統夫) 第10回 6月28日 『思春期』 (医学部泌尿器科・助教: 江口二郎) 第11回 7月5日 『大人 -眼の加齢』 (医学部眼科・教授: 北岡隆) 第12回 7月12日 『大人 -頭頸部領域のがんについて』 (医学部耳鼻科・准教授: 崎浜教之) 第13回 7月19日 『老化 加齢と老化』 (医学部第一解剖・教授: 森望) 第14回 7月26日 『老化』 (歯学部歯科麻酔科・准教授: 鮎瀬卓郎) 第15回 8月2日 定期試験			
キーワード	基礎医学、保健科学、臨床医学、発達、老化、ライフサイクル		
教科書・教材・参考書	必要に応じて、プリント・資料等を配布する。 視聴覚教材も利用する。		
成績評価の方法・基準等	授業への貢献度(20%)と定期試験(80%)の結果を総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 前期	曜日・校時 水・7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学 (分子と生命) Biological Sciences (Molecules and Life)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部(夜間主コース)	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 岡田幸雄 / Eメールアドレス: okada@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 歯学部 A 棟 4 階 403 号室 / オフィスアワー: 金曜日 15:30 - 17:30 教員研究室			
担当教員(オムニバス科目等)	根本孝幸, 岡元邦彰		
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 生命現象を担う基本分子であるタンパク質や遺伝子の構造とその働きを理解しよう。これらの生体分子の活動の場である細胞の構造と機能を学ぼう。さらに、これらが統合された形でどのように生命活動を営むかを理解しよう。本授業により生物学の基礎を理解することに加え、生命科学の今日的課題の意味について理解することも本授業の狙いとしている。</p> <p>授業方法: 教科書は用いず,主に液晶プロジェクターを使用し一部板書で授業を進める。</p> <p>授業到達目標: 生体高分子の構造と機能を説明できる。酵素化学反応を説明できる。細胞内及び細胞間の細胞の活動を説明できる。神経系,感覚系及び運動系の機能を説明できる。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>生化学,細胞生物学及び神経生物学の基本的事項を学ぶ。</p> <p>第1回 (4月11日) イントロ/生命の基本単位/喫煙しても癌にならない人もいる? (根本孝幸)</p> <p>第2回 (4月18日) 個体発生の不思議: クローン動物の誕生 (根本孝幸)</p> <p>第3回 (4月23日) 遺伝子の構造: ノーベル賞レースの行方 (根本孝幸)</p> <p>第4回 (5月2日) 酵素はどうやって化学反応を促進するのか? (根本孝幸)</p> <p>第5回 (5月9日) BSEの発症機構 (根本孝幸)</p> <p>第6回 (5月16日) 膜の構造と膜を通した輸送 (岡元邦彰)</p> <p>第7回 (5月23日) 細胞内区画と細胞内輸送 (岡元邦彰)</p> <p>第8回 (5月30日) 細胞の情報伝達 (岡元邦彰)</p> <p>第9回 (6月6日) 細胞周期の調節と細胞死 (岡元邦彰)</p> <p>第10回 (6月13日) 神経細胞の働き (岡田幸雄)</p> <p>第11回 (6月20日) 感覚の働き I: 視覚と聴覚 (岡田幸雄)</p> <p>第12回 (6月27日) 感覚の働き II: 味覚と嗅覚 (岡田幸雄)</p> <p>第13回 (7月4日) 脳の働き: 高次の精神活動と本能活動 (岡田幸雄)</p> <p>第14回 (7月11日) 細胞運動 (岡田幸雄)</p>			
キーワード	生体高分子, 酵素, 細胞, 生体膜, 神経, 感覚, 運動		
教科書・教材・参考書	教科書は用いず,授業内容に沿ってプリント資料を配布する。 参考図書は適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況(40%), 3回の課題レポート(60%)を考慮して行う。 レポートの評価の基準として,他人のレポートやプリントの丸写しものは評価が低くなる。		
受講要件(履修条件)	なし		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	本科目の内容は,生物学や医学研究の成果だけではなく,一般の人々の生活にもかかわりのあるものとなっている。		
備考(準備学習等)	なし		

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 火 7	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 丸山真純 / Eメールアドレス: masazumi@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 東南アジア研究所 312 /オフィスアワー: 18:00-19:30, Tuesday				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 <p>授業のねらい: コミュニケーションのための英文法の理解に努める。英語を運用する(話す、聞く、書く、読むに関わらず)には、他の要素と合わせて、英文法の知識が不可欠です。本授業では、基礎的な英文法を確認しながら、英語による表現力の向上をねらう。</p> <p>教科書に基づきながら、解説をし、受講生には授業内外を通じ、練習(や練習問題)を行ってもらおう。毎回課題提出があり、数回の小テストを行う。こうした授業内外で英語に触れることによって、英語力向上をねらう。</p> <p>授業方法: 担当教員による基本的文法事項の講義・解説。演習問題などの演習。</p> <p>授業到達目標: 基本的文法事項の習得(とりわけ、さまざまな時制の英文の読解、表現ができるようになること)。</p>				
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) <p>授業内容(概要) 教科書に基づき、基本的な時制に関する表現を習得し、実際に運用できるようにする。具体的な内容は以下の通り。</p> <p>第1回 Introduction(講義概要紹介)  第2回 Lesson 1 Cherry Blossoms  第3回 名詞・代名詞  第4回 Lesson 5 Advertisements  第5回 動詞  第6回 Lesson 6 Education  第7回 現在時制  第8回 Lesson 7 Loan Words  第9回 過去時制  第10回 Lesson 8 Work  第11回 現在完了  第12回 Lesson 13 One-Child Families  第13回 進行形  第14回 Lesson 14 Divorce  第15回 未来時制</p>				
キーワード	基礎英文法 現在時制 過去時制 現在完了 進行形 未来時制			
教科書・教材・参考書	<i>Basically America, Basically Japan</i> by Charles L. Clark et al., NANUNDO.			
成績評価の方法・基準等	出席 課題提出 小テスト 期末試験 から総合的に評価します (初回に詳しく説明します)			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ /学習・教育目標				
備考(準備学習等)				

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 火 7	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション English Communication			
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室 メディアステーション		
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員:吉村 宗司 /Eメールアドレス: <a href="mailto:yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp/">yoshimura@nagasaki-joshi.ac.jp/</a> 研究室:非常勤講師控室 /オフィスマワー:授業の前後(教室:メディアステーション)				
担当教員(オムニバス科目等)				
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:対話や会話といった、コミュニケーションを主要目的とする言葉のやりとりについては、なによりも相手を理解するための聴解力を基盤に持つことが必要である。発話力というのも聴解力あつての発話力であつて、聴解力さえ身につけば、発話力はそれに応じて自然にその進歩が期待できるものである。本講座では、これまで聞くことにあまり時間を割いてこなかった学校教育の弊害を可能な限り克服する意味で、サバイバル英語(米語) 必要最低限の英語(米語) を徹底的に学びながら、聴解力と発話力の増強を図ることを第一義的な目的に据えるものである。</p> <p>授業方法:まずは、聴解力の増強に極めて効果的な英音・米音の音声の特徴や法則性(音法)について解説し、聴解力と発話力のバランスをとりながら、英語(米語)の運用能力を習得するトレーニングを行なっていく。尚、マテリアルとしては、日常会話表現や旅行英会話、洋楽、時事(ニュース)等、実用性の高いものを取り上げていく予定である。</p> <p>授業到達目標:本講座の受講によって、これまで英米語のリスニングに際し、疑問であつたことが解消されるはずである。また、受講者のトレーニング次第では、外国人との英会話をはじめ、洋楽、映画、英語ニュースの視聴時に、上達の喜びを体感できるものと思われる。『英語が止まって聞こえる』ようになることを究極の目標に掲げる。</p>				
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>前半は、聴解力を増強させるうえで必須となる音声に関する知識の基礎固めを行なう。具体的には、基礎知識、及びリスニングに極めて有効な英音・米音の音声の特徴と法則性(音法)の習得である。中盤から後半は、リスニングとスピーキングのバランスをとりながら、発音矯正と並行して発話力の増強を目指す。限られた時間で実用英米語運用能力を促進させるトレーニングを行なっていくとともに、必要に応じて比較文化的視座から文化に関する実利的なトピックも織り交ぜつつ、言語と文化を包括して共時的に学ぶことを視野に入れた解説も展開する。</p> <p>第1回 オリエンテーション(授業方針についての説明、教材の配付、アンケートほか) 第2回 『なぜ日本人は英語の聞き取りが苦手なのか?』 分析結果の報告と対策法について 第3回 母音、子音、調音点、閉鎖音についての解説 / 『音の連結』を聞き取るパターン(リエゾンの原則) 第4回 [t][d][g]の脱落 / [t][d]のラ行音化 / 連結しない場合の[l] / [h]の脱落 第5回 『同化』を聞き取るパターン (半母音[j]に絡む音変化) 第6回 『同化』を聞き取るパターン ([n]の後続音への影響) 第7回 [r]の発音 / 『同じ子音の連続による脱落』を聞き取るパターン 第8回 『閉鎖音の連続』を聞き取るパターン / 『調音点が近い子音の連続』を聞き取るパターン 第9回 On an Airplane(1) 第10回 On an Airplane(2) 第11回 At an Airport(1) 第12回 At an Airport(2) / VTR 視聴 / ニュースを聞き取る 第13回 Taking a Taxi / VTR 視聴 / 洋楽を聞き取る 第14回 Taking Public Transportation / VTR 視聴 第15回 At a Hotel / 総括</p> <p>毎回、詳細に解説を施す予定であるため、上記の進度設定を変更する場合もある。尚、基本的な音法を習得した後に旅行英会話等への応用を試みるが、解説やトレーニングに加え、比較文化的視座から実利的なトピックも交えつつ講義を進めていく。</p>				
キーワード	音法			
教科書・教材・参考書	(1) 英語リスニング 聞き取るための入門講座(ハンドアウト教材) (2) American(ハンドアウト教材) (3) アメリカの生活と文化(VTR 教材)			
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業への積極的参加意欲(トレーニングの状況や受講態度 20%)等の総合判定によって評価を行なう。			
受講要件(履修条件)				
本科目の位置づけ / 学習・教育目標				
備考(準備学習等)	配布された教材に対する予習復習は必須である。力をつけたければこれを毎回確実に実践すること。			

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 水 7	必修選択 必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	総合英語 Comprehensive English		
対象年次 1年次	講義形態 演習	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類	外国語科目(英語)
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 山崎有介/ Eメールアドレス: pro-1223@ngs2.cncm.ne.jp/ 研究室: 非常勤講師控室/ オフィスアワー: 授業終了後			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 語彙に関しては丹念に辞書を引いてもらいたい。また、読解力を通して、英文の構造を身につけ、重要表現やイディオムを用いて英文表現力を養ってほしい。</p> <p>授業方法: テキストの Reading、True/False、Questions &amp; Answers、Vocabulary in Context、Idioms in Use、Discussion、Listening Comprehension を通し、確実に英文読解力と表現力をつける練習をしてもらう。</p> <p>授業到達目標: 無理なく通常の英文が読め、聴覚力を養うことで、発音の向上を目指し、スピーキングのみならず、書く力を鍛錬することで、英語における表現力を豊かにしたい。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>2000年から約5年間かけて24ヶ国30家族を調査したテキストを用い、地球全体の食の実態を明らかにし、各国の需要と供給の関係の現状を考察する。食とその国の地理、環境、文化、歴史、習慣、経済、政治が如何に密接に関連しているのかを考えることで、グローバルな視野を養うものである。</p> <p>Chapter 1</p> <p>第1回 Introduction &amp; Chapter 1: Feast of Eden</p> <p>第2回 Chapter 2: Water at the Wadi</p> <p>第3回 Chapter 3: On the Cusp</p> <p>第4回 Chapter 4: Still Afloat</p> <p>第5回 Chapter 5: Hypermarket Fever</p> <p>第6回 Chapter 6: Bio Logic</p> <p>第7回 Chapter 7: Bacon at the Bees'</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>Chapter 2</p> <p>第9回 Chapter 8: Indigenous Spirits</p> <p>第10回 Chapter 9: Poha Breakfast</p> <p>第11回 Chapter 10: Oil for Food</p> <p>第12回 Chapter 11: Wanted: Living Wage</p> <p>第13回 Chapter 12: Hungry for Change</p> <p>第14回 Chapter 13: Fabulous Food</p> <p>第15回 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<i>Hungry Planet: What the World Eats</i> 鶴岡公幸・佐藤義明 編著 松柏社		
成績評価の方法・基準等	定期試験 50%、中間試験 20%、小試験 15%、授業への姿勢 15%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 水 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間と文化 (哲学のススム) Humanity and Culture (Elementary Philosophy)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員: 永嶋哲也 / Eメールアドレス: tetsu@lit.kyushu-u.ac.jp / 研究室: /オフィスマワー: 講義の行なわれる日(後期の毎週水曜日)午後5時30分から6時まで、非常勤講師室にて			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 哲学は歴史上、対話という形式から出発した。つまり相手の話を理解し、自分自身で考えるという形から哲学という営みは始まった。この「相手の話を理解し、自分自身で考える」という基本的だけれども実行の難しい哲学的な思考態度を身につけてもらうことをこの講義は目指す。  授業方法: オーソドクスな形式の講義。つまり要点を板書し、それについて説明する。 また学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらい、それにコメントをする。  授業到達目標: 抽象的な物事であっても正しく理解し、自分自身で論理的に考えることができるようになる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 例えば「在る」とか「知る」「正しい」「こころ」などの言葉の意味とはどういうものだろうか? 言い換えれば、そういうもの/ことというのは、日常にありふれていて、なにげなくて使っているけれども、いざ「それは何?」「どういうもの/こと?」と訊ねられるとその答えに困ってしまう。そういう身近だけれども考えてみれば謎な事柄こそ、哲学の主要問題・中心問題になるのだと思う。だからこの講義では哲学入門のために、誰かの思想や名言ではなくて、事柄中心に、つまり上で書いたような主要問題を中心に取り上げる。 今年度は、つぎのようなテーマを取り上げる予定である。 ・存在 「ある」とはどういう意味か? ・時間 何かが流れているのか? ・行為 何かを「為す」といとはどういうことか? ・自由 われわれは自由に何かを為しているのか? 各テーマについて、なぜその問題が問われるのか、どのような仕方で行われるのかを紹介したい。それに対して受講生の諸君がどのように考えるか、授業中のレポートという形で書いてもらおうと考えている。 授業スケジュール: 01 回目 イントロダクション(概論) 02 回目 (つづき) 03 回目 存在 「在る」のさまざまな意味 04 回目 時間空間の中に「ある・ない」 05 回目 時間 存在するか? 06 回目 流れているか? 07 回目 幅はあるか? 08 回目 過去や未来はあるか? 09 回目 行為 行為と単なる動作・振舞いの違い 10 回目 行為の分類 11 回目 自由 行為と選択意志 12 回目 自己決定と隷属 13 回目 自由意志と決定論 14 回目 因果連鎖と自由選択 15 回目 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。 参考文献は講義で紹介する。		
成績評価の方法・基準等	学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する(配点20%)。 学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約(配点40%)で、もう一つは自らの意見を展開してもらう(配点40%)。		
受講要件(履修条件)	授業を真面目に聴き、理解しようという意欲のある者に限る。		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	法と政治(企業活動と法) Law and Politics (Business Laws)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 岡本 芳太郎 / Eメールアドレス: yokamoto@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 経済学部本館6階 607号室 / オフィスアワー: 木曜日 18:00-19:30。事前に予約してもらえれば、その他の時間も対応します。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 現代社会における経済活動の大部分を担っている企業の組織や活動を規律する法についての基礎的な理解を得る。 授業方法: 授業計画に沿ったプリント資料を配布し、講義形式で行うが、随時小テストを実施する。テキストは補足的に使用する。 授業到達目標: 新聞等で報じられる企業活動に関連する簡単な法律問題について理解し、他人に説明できるようにすることを目標とする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 企業に関連する法令のうち、企業組織及び企業取引(競争の規制を含む)に関する主要な法制を概観する。 第1回 法とは何か。…社会における法の役割、法源、実定法の種類、法の解釈等 第2回 契約の自由…契約の締結、種類、違反等についての基礎知識 第3回 企業取引…商行為における特別、商取引における固有の契約類型等 第4回 債権回収…担保物権、保全処分その他の債権回収の手続き 第5回 不法行為…不法行為の概念と種々の類型、救済 第6回 会社の種類と株式会社の設立 第7回 株式会社の運営と組織…株式会社の株主総会、役員等の機関の種類、役割、責任 第8回 株式と会社の計算…株式の種類と発行手続き、企業活動状況の開示 第9回 会社の倒産…会社の倒産時における再建型及び清算型の処理の手続き 第10回 私的独占と不当な取引制限…独占禁止法の概要と事例 第11回 特許と営業秘密…技術情報の保護に関する法律の概観 第12回 ブランド・著作権・意匠権…ブランド、デザイン、著作物等の創作者の保護に関する法制の概観 第13回 国際取引・国際訴訟…国際企業取引における法律上の諸問題 第14回 紛争処理と刑事裁判…民事裁判、ADR等の紛争処理と刑事犯に関する法制 第15回 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	「ビジネス法務の基礎知識」山川一陽・根田正樹 弘文堂 平成18年9月		
成績評価の方法・基準等	定期試験 70%、授業への貢献度 15%、小テスト 15%。		
受講要件(履修条件)	特になし。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金 7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	経済と経営 (現代中国経済入門) Economics and Business (Modern Chinese Economy)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 氏名: 井手啓二 / Eメールアドレス: k-ide@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 経済学部本館 630 /オフィスパワー: 毎週金曜日6限(6時~7時半)			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 中国経済の躍進が目覚しい。本講義では、現代中国経済について初歩的・基本的理解を獲得してもらうことが狙いである。  授業方法: レジュメ・資料にもとづく講義である。  授業到達目標: 中国経済にかんする新聞記事、雑誌論文・書籍を十分に理解できる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎回の授業内容を含む) 授業内容(概要) まず19世紀なかばから今日にいたる中国経済の発展過程を概説する。ついで人民・社会主義中国の経済発展過程を概説し、1979年以降の改革・開放時代の中国を論ずる。改革・開放の諸段階を論じ、成長の諸段階と構造、社会主義市場経済化の現段階を明らかにする。以上のうえで、現在の中国経済のマクロ・ミクロ分析を行う。経済構造、産業構造、外資の役割、日中経済関係、兩岸経済関係、香港・マカオとの関連、中国企業の海外進出などについて具体的な産業・企業分析をおこなう。  第1回 インTRODクシヨーン中国経済の躍進、中国経済と世界・東アジア経済、日本とのかかわり 第2回 中国における工業化・近代化の開始 19世紀半ば~1949年 第3回 中国経済の発展過程 政策と制度の変化 1949年~2007年 第4回 社会主義市場経済化をめざす中国経済の現段階 WTO加盟・経済大国化(世界の工場・市場) 第5回 日中経済関係の現在 政冷経熱 第6回 台湾、香港・マカオとの経済関係 第7回 ASEAN、および周辺諸国(韓国、インド、ロシアなど)との経済関係 第8回 中国の経済発展と外資の役割 生産、投資、貿易、業種に占める比重 第9回 中国企業の所有形態、規模別構造 非国有セクターの位置 第10回 中国産業分析(1) 電気・電子産業 第11回 中国産業分析(2) 繊維・アパレル産業 第12回 中国産業分析(3) 農業 第13回 中国企業の海外進出・多国籍企業化(1) 概説 第14回 中国企業の海外進出・多国籍企業化(2) - 事例分析 第15回 定期試験			
キーワード	社会主義市場経済、改革・開放、世界の工場・市場、経済大国化、国有セクター		
教科書・教材・参考書	教材 毎回レジュメ・資料を配布する。 参考書 ジェトロ、経済産業省白書 森谷正規『中国経済 真の実力』(文春新書、2003)、関 志雄『中国経済のジレンマ』(ちくま新書、2005)、榊原英資『人民元改革と中国経済の近未来』(角川新書、2005)		
成績評価の方法・基準等	授業への積極的参加状況(10~20%)、期末試験(80~90%)、レポートを課すことがある。アジア経済関係の各種懸賞論文入賞者は、加点する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	レジュメ・資料にもとづく講義であるから出席に留意されたい。		

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 月 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	日本国憲法 (憲法「改正」と立憲主義・平和主義) Constitution of Japan (Constitutional change against Constitutionalism and Pacifism)		
対象年次 1年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 経済学部夜間主コース	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 吉田省三 /Eメールアドレス:yosida-s@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 経済・本館 507 /オフィスパワー: 月曜 19,30-20,00			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 憲法の「常識」をもう一度よく考えてみよう。例えば、「国のかたち」を示すのが憲法であるという言説がある。これはどこがおかしいと思った方は受講して疑問を解いてください。</p> <p>授業方法: 教科書を使用し、日本国憲法の主要な事件、判例を解説する。</p> <p>授業到達目標: 世界および日本の憲法の歴史、憲法の基本的概念、主要な憲法判例を理解する。個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期する。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要) 憲法の過去 立憲主義の歴史、現在 人権の実現の状況、未来 改憲問題について講義します。</p> <p>第1回 憲法の過去: 憲法とは何か。「人権を承認せず、権力の分立が無い人民は憲法をもたない。」 第2回 立憲主義の歴史、英国・合州国・フランス、19世紀立憲主義 第3回 日本国憲法とその歴史(1) 第4回 日本国憲法とその歴史(2) 第5回 憲法のキーワード: 権利と義務(1) 第6回 憲法のキーワード: 権利と義務(2) 第7回 憲法のキーワード: 権利と義務(3) 第8回 憲法のキーワード: 民主主義と権利保障(1) 第9回 憲法のキーワード: 民主主義と権利保障(2) 第10回 憲法のキーワード: 民主主義と権利保障(3) 第11回 憲法のキーワード: 民主主義と権利保障(4) 第12回 憲法と国際社会 第13回 憲法の未来: 憲法改正問題(1) 第14回 憲法の未来: 憲法改正問題(2) 第15回 定期試験</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・永田秀樹『歴史の中の日本国憲法』法律文化社。</li> <li>・日本国憲法の条文は必携、『世界憲法集』などがあればさらによい。</li> </ul> <p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュリスト『憲法判例百選』有斐閣</li> <li>・渡辺治『憲法「改正」 - 軍事大国化・構造改革から改憲へ』旬報社、2005。</li> <li>・愛敬浩二『改憲問題』ちくま新書。</li> </ul>		
成績評価の方法・基準等	定期試験の成績により評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木 6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能(口の健康と歯科治療) Basic Human Physiology (Oral Health and Dental Treatment)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 人間科学	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスマワー 担当教員: 村田比呂司 / Eメールアドレス: hmurata@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 歯学部C棟6F /オフィスマワー: 授業の前後に質問を受け付けます。			
担当教員(オムニバス科目等)	朝比奈 泉、齋藤俊行、久恒邦博、吉田教明、川崎五郎、澤瀬 隆、真鍋義孝、山邊芳久、石飛進吾、久保田一見、鳥巢哲朗、柳口嘉治郎、吉村篤利		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 歯を含めた口腔の健康は、われわれの健康維持そして質の高い生活に、重要な役割を果たしています。そのため、口腔内に虫歯、歯槽膿漏など何らかの疾患が生じた場合、歯科医院を訪れます。本授業では、口の健康の重要性と歯科治療を受ける際に理解しておけば役に立つ事項を講義します。 授業方法: それぞれの専門家により、基礎的な歯科知識、歯科医院および大学病院で行われている一般的な治療、現在大学病院で行われている専門的な治療、そして先端的な研究を、パソコンによる講義で紹介します。 授業到達目標: 「口腔の健康の重要性および健康に保つための方法を説明できる」ことを到達目標とします。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 歯科医学・医療はいくつかの専門に分かれています。本授業では、口腔解剖、歯科材料、齲蝕、歯周病、義歯、インプラント、小児歯科、口腔外科、予防、摂食・嚥下リハビリテーションなどの専門家による、わかりやすい講義を行います。また授業の前後に、授業に関する内容のみならず、受講生の歯科に関する相談も受け付けます。  第1回 口と歯の構造 (真鍋義孝) 第2回 齲蝕の程度と処置法 (柳口嘉治郎) 第3回 歯周病の症状と治療 (吉村篤利) 第4回 咀嚼と健康 (吉田教明) 第5回 顎運動の制御 (鳥巢哲朗) 第6回 インプラントによる歯の再建 (澤瀬 隆) 第7回 義歯の話 (村田比呂司) 第8回 口の中に使われる歯科材料 (久恒邦博) 第9回 顎関節の構造と機能障害 (山邊芳久) 第10回 小児歯科治療について 特別な配慮を必要とするこども達のために (久保田一見) 第11回 口の中のがん (川崎五郎) 第12回 再生医療とは何か (朝比奈 泉) 第13回 摂食・嚥下リハビリテーション (石飛進吾) 第14回 う蝕と歯周病の予防 (齋藤俊行) 第15回 定期試験 (村田比呂司)  授業の順番が変更になる可能性がある。その場合は前もって連絡します。			
キーワード	健康、歯科医療		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しませんが、必要に応じて資料などを配布します。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(60%)および授業への貢献度(40%)により評価します。なお定期試験は、自らの考えを述べてもらう記述式とします。		
受講要件(履修条件)	全授業の2/3以上の出席、および定期試験を受けないと成立しません。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	口腔の健康の重要性および歯科医療を理解することにより、自らの健康増進に役立つことができることを目標とします。		
備考(準備学習等)	疑問点および聞きたいことがあれば、遠慮なく質問してください。		

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 木・7	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	地球と宇宙の科学(海洋の科学) (Earth and Space Sciences: Marine Science)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	経済学部夜間主コース	科目分類 自然科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中田英昭 / Eメールアドレス: nakata@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 水産学部本館2階 /オフィスアワー: 講義終了後、Eメールによる質問も受け付ける			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい: 人類による地球環境の破壊がクローズアップされ、対策が求められる時代になった。地球環境問題を論じるには、まず地球そのものについてよく知る必要がある。ここでは、最も重要な地球システムの一つである海洋について、基本的な知識を提供し、その役割の重要性を理解させる。</p> <p>授業方法: 講義形式による。</p> <p>授業到達目標: 水の惑星とも呼ばれる地球の特質を理解するとともに、地球のサブシステムとして海洋が果たす役割について説明できるようにする。</p>			
<p>授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>地球の表面積のおよそ70%を占める海洋は、地球上の水や熱、二酸化炭素の巨大な貯蔵庫であり、地球温暖化などグローバルな環境問題に重要な役割を果たしている。また、海洋の生物資源は21世紀を生きる人類の食糧を確保する上で必要不可欠である。地球のサブシステムとして海洋が果たしている上記のような機能を、できるだけ系統立てて分かりやすく概説する。</p> <p>第1回: 海と地球と人と(その1) - 宇宙の中の地球  第2回: 海と地球と人と(その2) - 海水の運動の原理(1)  第3回: 海と地球と人と(その3) - 海水の運動の原理(2)  第4回: 海と地球と人と(その4) - 大気と海洋がつくるシステム  第5回: 海と地球と人と(その5) - 海洋における熱と淡水の収支  第6回: 海と地球と人と(その6) - 海洋の生態系と生物生産  第7回: 海と地球と人と(その7) - 海洋の生物資源生産システム  第8回: 地球環境問題の現状(その1) - 地球温暖化とその影響(1)  第9回: 地球環境問題の現状(その2) - 地球温暖化とその影響(2)  第10回: 地球環境問題の現状(その3) - オゾン層の破壊  第11回: 地球環境問題の現状(その4) - 化学物質による汚染  第12回: 地球環境問題の現状(その5) - 海洋の酸性化  第13回: 気候変化と海洋生態系や生物資源の長期変動(1)  第14回: 気候変化と海洋生態系や生物資源の長期変動(2)  第15回: 定期試験</p>			
キーワード	地球環境、海洋科学、気候変化、海洋生態系、海洋生物資源		
教科書・教材・参考書	<p>教材: 適宜、講義資料を配布する。</p> <p>参考書: 「現代環境論」高月紘・仲上健一・佐々木佳代(編)、有斐閣ブックス665、有斐閣、294ページ、1996年(2000円)</p> <p>「海洋のしくみ」東京大学海洋研究所(編)、日本実業出版社、170ページ、1997年(1400円)</p> <p>「地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム」酒井治孝(著)、東海大学出版会、284ページ、2003年(2800円)</p>		
成績評価の方法・基準等	海洋のさまざまな機能とその保全の大切さなどに関する理解度を問うため定期試験(100%)を行う。評点60%以上を合格とする。		
受講要件(履修条件)	とくに条件など設定しないが、講義の中には物理学の用語が出てくることがある。		
本科目の位置づけ / 学習・教育目標	海洋に関する科学的な基礎知識を幅広く習得し、必要に応じてそれを専門分野に応用できる能力を養成する。		
備考(準備学習等)	理解を深めるために、上記の参考書のどれかを学習することを薦める。		

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 火/6	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	金融経済の分析視点 (Method of Financial Science)		
対象年次 1~4年生	講義形態 講義	教室 121 講義室 (予定)	
対象学生(クラス等)	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	内田 滋 /uchida-s@nagasaki-u.ac.jp /研究室:経済学部本館 606 /オフィスアワー:授業終了直後の30分程度		
担当教員(オムニバス科目等)	内田滋、神園健次、矢島邦昭、吉田高文、須齋正幸、岡本芳太郎、川村雄介		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>1 授業のねらい:今年度は、主として現代の経済社会における金融に関する諸問題について、それらを分析するときの主要な視点となる経済学、経営学、法学、計量経済学などとの関連も含めて考察することにより、金融経済の現状に対する問題意識を持つことができることをねらいとする。</p> <p>2 授業方法:講義形式による。なお、適宜、教員により質疑応答の時間を設けることがある。</p> <p>3 授業到達目標:上記1に関連した問題意識をもち、授業内容に関する基礎的事項を説明できるようになることを目標とする。</p> <p>各担当教員の2週連続講義であるから、2週目のみ受講しても理解できないことがあるので注意すること。</p>			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)			
授業内容(概要)			
第1回 インTROダクション(内田)本科目の趣旨や講義構成等の説明を行うので、履修予定者は、必ず出席して下さい。			
第2回 現代社会と金融問題(内田)経済社会における金融の役割や問題について概説する。			
第3回 貨幣の時間価値(神園)時間が異なれば貨幣の価値が変わることを理解し、複利計算、将来価値・現在価値の計算を行えるようにする。			
第4回 消費と貯蓄のライフサイクル計画(神園)前回の議論を応用し、生涯にわたる消費と貯蓄の計画について考察する。			
第5回 活力ある経済社会と資産運用(矢島)経済社会の中で資産運用の役割を概説する。			
第6回 運用の科学と金融工学(矢島)科学は運用をどう捉えるか。その中で金融工学の役割を解説する。			
第7回 市場経済と企業(吉田高)市場経済における企業行動や株式会社制度を理解する。			
第8回 企業価値とM&A(吉田高)企業の合併・買収を企業価値最大化の観点から考察する。			
第9回 外貨取引とさまざまな為替レートの役割(須齋)直物レートや先物レート、対顧客電信取引レートなどさまざまな為替レートが存在するが、それぞれの役割と我々との関わりを講義する。			
第10回 為替レートの変動要因の検証(須齋)日本はすべての通貨に対して変動相場制を採用しているが、為替レートがどのような要因で変動し、その変動が我々の生活にどのように影響するかを講義する。			
第11回 知的財産の価値評価(岡本)知識社会における競争力の源泉としての知的財産の概要、種類等及びその経済的価値評価の概要を説明する。			
第12回 知的財産の信託・証券化(岡本)ベンチャー企業等における資金調達的手段としての知的財産の利用方法としての担保化、証券化、知的財産報告書等を概説する。			
第13回 これまでの日本の金融の仕組み(川村)第二次大戦後の日本は先進国レベルへの産業発展を支える金融の仕組みをとってきたが、20世紀後半に大きな変化を遂げることとなった。			
第14回 金融システムの抜本的変革とその意義(川村)96年に金融ビッグバン宣言が出され、日本の金融システムは市場を中心概念とするものにシフトしている。			
第15回 期末試験			
(注)1 オムニバス方式の都合上、一部変更もありえる。			
2 オフィスアワー(質問受付時間)授業終了直後の時間(30分程度)をあてる。			
キーワード			
教科書・教材・参考書	使用しない予定。		
成績評価の方法・基準等	期末テスト100%		
受講要件(履修条件)	履修条件はとくになし。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)	講義に関する直接的な質問については、各担当教員が対応するので、なるべく講義中あるいは講義直後に行うことを勧める。		